

## 柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会

### 自分たちの街を自らの手で運営するエリアマネジメント



行政や開発事業者に街づくりを委ねるのではなく、市民の力でより良い街をめざす「まちづくり協議会」の活動が、全国各地で始まっています。防災、治安、美化・緑化、コミュニティ活性化など地域固有の課題解決を目指し、この夏、柏の葉キャンパスシティに誕生した「柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会」は、住民組織と立地企業が一緒になって活動する国内有数の大規模エリアマネジメント組織です。

#### 地域を束ねて大きな力に

高層階のご近所同士が協力してお年寄りの避難を手伝う、駅前商業施設が帰宅困難者を受け入れる、コンビニが避難者に差し入れをする・・・

これは2011年3月11日、大震災直後の柏の葉キャンパス駅前の光景です。「独りで不安だったため本当に助かった。街が結束する必要性を痛感しました」と振り返るのは、駅前マンションに住む60代の女性。柏の葉キャンパスシティでは、市民の手で街を運営・管理していくエリアマネジメントの実現に向けて、以前から協議が重ねられていましたが、大震災を機にその動きは加速しました。

7月9日、「柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会」の設立総会に集まったのは、住民組織2団体(柏の葉キャンパス一番街町会、パークシティ柏の葉キャンパス二番街管理組合)と、立地機関6団体(京葉銀行、辻仲病院柏の葉、ららぽーと柏の葉、柏の葉アーバンデザインセンター、三井不動産、三井不動産レジデンシャル)。

協議会の特徴は、住民と企業がフラットな立場で結束していること。ひとりの声や力では対処できない地域課題を、多くの人々が結束して大きな声と力に変え、より快適な街にしていこうと活動が始まっています。

#### 意外と知らない街のコト

大規模開発が進行中の柏の葉キャンパスシティには、新たに建設された施設が多くあります。住民も新たに移り住んできた人々が大半。まずは市民がこの街を知ることから始めようと、協議会では設立総会終了後に第一弾イベントとして「駅前地域施設見学会」を行いました。

当日集まった60人の協議会メンバーは2グループに分かれ約1時間半、駅前各施設の防災設備を中心に見学しました。日常生活では目に触れる機会の少ない豊富な防災資源の存在に、一同驚きの表情。参加した40代の男性は「発見の連続だった。もしもの時に備えるために、街の情報共有や連携を続ける大切さを実感した」と感想を寄せます。

この見学会では新しく住み始めた人

や、今まで交流のなかった住民との出会いもあったそう。「一緒に街づくりに参加したい」「柏の葉がより好きになった」との声があちらこちらから聞こえてきました。



この街で生活していても、意外と知らないことが多い。駅前エリアの模型を見ながら、現在何があり、これから何ができるのか、改めて点検してみると新たな発見も。



ららぽーと柏の葉は、館内で使用する水の約9割をまかなうほどの豊富な地下水利用システムが整っており、災害時も水ライフラインが確保されている。

## 柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会

### ご近所のソフトパワー

「ハードも大切だが、それを動かすソフトの力が必要。例えば災害時に備蓄された水があっても、配る人やルールがなければ、使うことはできません」と語るのは、まちづくり協議会の会長を務める近藤文雄さん。3・11を経て、目に見えない信頼や助け合いの必要性が実感された今、協議会に求められている事、できる事は少なくありません。

「16年前の阪神大震災、神戸真野地区が被害を最小限に抑えられた理由は、普段から結束していた地元まちづくり組織の存在にある」。防災都市計画研究所の吉川忠寛さんは、9月3日に柏の葉で開催したシンポジウム(写真)で、地域が結束する重要性を解説しました。

真野地区では、お祭りや緑化運動などを通じて育んだ地域のつながりが、震災直後からバケツリレーや炊き出しとなって発揮され、多くの命を救ったとか。「普段から災害対策をやっていたわけではない。最大の対策になったのは、日頃の交

流や組織を越えた協力関係」と吉川さんは話します。

熱気に満ちたシンポジウムの会場からは「自分はどうすれば関わっていいのか」「日中働いている身でも協力できるのか」など積極的な声が続ぎました。

協議会会長の近藤さんは「助け合いが必要な時は必ずやってくる。誰かがやってくれるのを待つのではなく自分から動き、隣人とつながり、ソフトの力を大きく育ていきたい」と、今後の協議会活動の抱負を語ります。

### 「街の声」を届ける

より良い街にしていくために、まちづくり協議会の活動は防災以外にも多岐にわたります。設立から2ヵ月、具体的な意見や要望も寄せられるようになりました。その中のひとつ、「駅周辺に交番や郵便局がほしい」という声は、以前から特に多く聞かれる要望です。

8月12日、協議会は交番や郵便局の整備に向けて柏市との協議に臨みまし。市からは「交番は2012年秋の開設



まちづくりシンポジウムでは、3月11日の柏の葉キャンパス駅前の様子をスクリーンで映し出し、当時の検証と今後の課題を話し合った。

を目指す。郵便局は市としても、候補物件の紹介など誘致を働きかけ続ける」と前向きな回答。協議会のメンバーは「ひとりの声ではなく、街の声として、今後も市や関係機関と協議を続けていきたい」と意気込みます。

今後協議会では、駅前の美化活動や防犯パトロール、イベントの開催など活動の幅を広げていく予定。10月1日には「まちづくり意見交換会」を実施し、協議会活動の方向性やまちづくりのアイデアについて、自由に話し合う場をもうけるとのこと。柏の葉キャンパスシティの玄関口がどのように変わっていくのか、注目です。



近藤 文雄 氏  
柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会 会長

## キーパーソン・トーク

出身は群馬県の大泉町。2年半前に柏の葉キャンパスシティに引っ越してきました。交通アクセスは便利ですが、現在はまだ開発中の街であり不足している部分があることも確かです。

「足りなければ自分達で作ればいい」と考え、自ら街づくりに関わろうと町内会や地域のクラブ活動に参加し、一番街町会の会長にも就きました。柏の葉は積極性のある街、「次は何が始まるのだろう!」と期待が持てる街、そして、何かを生み出すのは誰でもない自分かもしれない、誰もが作り手となる街。そんなワクワク感の絶えない街です。

以前住んでいた群馬ではユースホステルの支部をゼロからつくりました。老若男女や国籍を問わず、多くの人と交流し活動の幅を広げていくことがとても楽しかった。このときの経験が、私の街づくり活動の原点です。待っていても前に進まない、人任せにせず自分が担う。柏の葉にもそのパ

ワーがあると思っています。

3月11日、柏の葉キャンパス駅前には不安そうな顔で溢れていました。人は忘れる生き物ですが、あの経験は絶対に忘れず今後に活かしていかなければなりません。新しい人も積極的に参加してほしい。住んだ年数は関係ありません。知らなくても大丈夫。街に関わる全ての人々が輪になって、それからお互いを知っていけばいい。

まちづくり協議会は、複数の組織がつながり、顔が見えるようになってきた今が出発点です。同じ地域やマンションに住んでいるのだから「隣は何をする人ぞ」ではなく、オープンでありたい。柏の葉をもっと住みよい街にしたいと考えている方はイベントやボランティアからでもぜひ参加してください。

映画「北の零年」のように、今は住民の一人として「柏の葉零年」に立ち会っている気持ちです。楽しく住みやすい街を次世代に引き継げるようにしたいですね。

### □編集後記□

シンポジウムでは「防災バカ」がいる街はコミュニティの結束力が強い」というお話も。工夫された面白い防災訓練がどんどん開発されるそうです。前向きにいざという時に備えたいものです。(丸浜)

●このニュースレターに関するお問い合わせ先

柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) 広報担当 小林、蛭川、丸浜  
〒277-0871 千葉県柏市若葉184-1柏の葉キャンパス149街区13  
TEL 04-7140-9686 FAX 04-7140-9688  
E-MAIL ma-kobayashi@udck.jp WEB http://www.udck.jp

柏の葉  
アーバン  
デザイン  
センター

UDCK